教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

紀の川市立鞆渕小学校
教諭　三　木　礼　子

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は，教育に関する専門的・技術的事項について研修し，教職員としての資質能力を高め，その成果を本県教育の充実に生かすことを目的とされている。言うまでもなく，教員は絶えず研究と修養に励み，その職責の遂行に努めなければならない。研究とは「物事を詳しく調べたり，深く考えたりして，事実や真理を明らかにすること」であり，修養とは「知識を高め品性を磨き，自己の人格形成につとめること」(『大辞泉第２版』2012，小学館）とある。

今回，長期研修員研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と，教員としての資質を広く高める修養の機会（下図参照)」として捉え，１年間研鑽を積むこととなった。研修中は,センター等が実施する多岐にわたる研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講，所属校における学校課題解決のための校内研修参加等を通して，幅広く教員としての資質能力の向上を目指してきた。

研究では，国語科における小中連携という所属校の課題解決に向け，所属校と連携を密に進めた。様々な文献や先行研究から，課題解決に有効と考えられるものを集めて所属校と共有するとともに，所属校における校内研修に参加し，大学教授指導のもと構造的読解について学んだ。４月当初は，長期研修員が担う「ミドルリーダー」という役割が，自分には荷が重いと感じ，負担に思うこともあったが，所属校の研究と併行して自身の研究を進めるうちに，学校という組織の一員として自分ができることを考えながら関わるようになった。その結果，所属校の研究推進に寄与することができた。これは，研修力向上トレーニングや，組織開発力向上トレーニングなど，修養に係るトレーニングを受講したことによる自身の成長だと感じている。

他のトレーニングを通して学んだ知識や経験も,自身の成長に反映されている。例えば，授業力向上トレーニングでは，算数科や国語科の教科書の特性を生かして授業を構成することや，教材分析を単独ではなく協同して行うことの有用性を学んだ。特に，算数科においては，教科書の挿絵や図を効果的に利用することが，指導の充実につながることを実感した。また，研修員研修では，これまで苦手意識を持っていた生徒指導や特別支援教育などの分野についてじっくりと学ぶことができ，学習指導の改善によって生徒指導や特別支援教育上の課題解決を図ることについて考えるようになった。これらの学びは，自身の経験不足を補い，教員としての資質向上につながるものとなった。今後は，この１年間の学びを学校現場に還元するとともに，学び続ける教師でいられるよう努力したい。

なお,自己の専門性を向上させるために,年間を通して行った研究については,別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第１段階 基礎期	第２段階 向上期	第３段階 探究期	第４段階 充実期	第５段階 修了期
月	４月～５月	６月～８月	９月～11月	12月～１月	２月～３月
研究	・研究テーマ，方向性を設定し，第１回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けた単元計画，資料等作成，模擬授業	・授業研究計画を第２回報告会で発表 ・授業研究の実施	・授業研究で収集したデータ分析	・和歌山教育実践研究大会で発表 ・研究報告書，資料の作成
修養	所属校研修「所属校との連携・研修成果の還元」 ■「授業力」「学校組織開発力」「校内研修運営力」向上トレーニング ■専門性の向上を目指す専門研修講座等受講 ■初任者研修，１０年経験者研修聴講 ■学びの丘指導主事等による研修員研修				

図　研修の概要